

ニホンナシの新一文字型樹形は 定植10年目を経過しても多収を維持できる

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—ナシ—整枝・剪定

2 担当者名

南春菜、額田光彦、佐久間宣昭

3 要旨

ニホンナシ「幸水」及び「あきづき」の新一文字型樹形は定植後6～7年で成園化が可能な樹形であり、定植10年目を経過しても慣行樹形と比較して多収を維持できることを確認した。

- (1) ニホンナシの新一文字型樹形は、棚下15～20cmの高さに2本主枝を一文字に配置し、主枝の両側に肋骨状に側枝を配置した樹形であり、植栽間隔は列間3m、樹間6～7mに密植する。
- (2) 新一文字型樹形の10a当たりの収量は慣行樹形を大きく上回り、「幸水」は定植12年後に約4,100kg、「あきづき」は定植15年後に約5,900kgに達した(図1、2)。定植10～11年目の「幸水」、定植14年目の「あきづき」は開花期の低温や黒星病の発生等により減収がみられたものの、多収性は維持された。
- (3) 定植後12年目(2021年)の新一文字型樹形の単位面積あたりの側枝本数は、慣行樹形に対して「幸水」は約1.9倍、「あきづき」は約1.2倍であった。新一文字型樹形の果実重をはじめ、果実品質、腋花芽分化率は、慣行樹形との差は見られなかった。

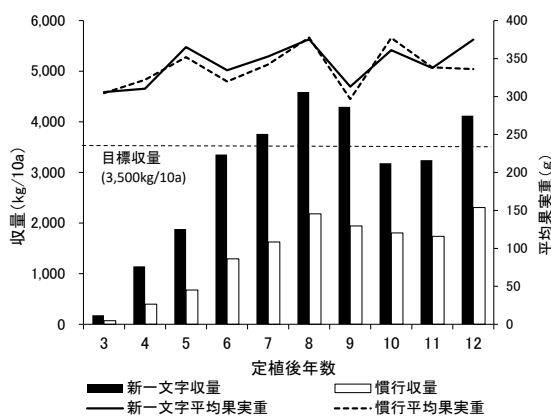


図1 「幸水」10a当たり収量と平均果実重の推移(2012-2021年)

※10a当たり植栽本数：慣行18本、新一文字56本

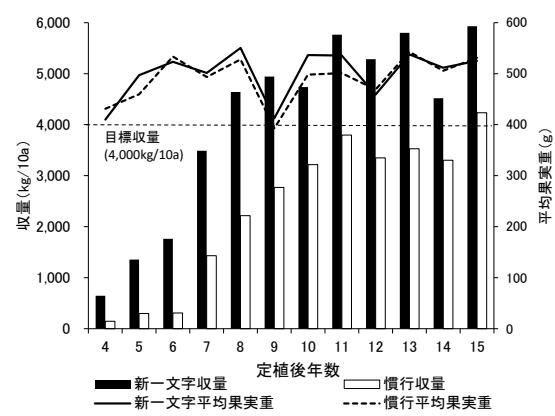


図2 「あきづき」10a当たり収量と平均果実重の推移(2010-2021年)

※10a当たり植栽本数：慣行20本、新一文字48本

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度～令和7年度
- (2) 研究課題名 ナシ・ブドウの革新的栽培技術体系による省力・高品質生産技術体系の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 額田ら,早期成園化と省力化を可能とする日本ナシの新一文字型樹形,平成26年度普及成果